

いっぽいっぽ

R 2・6・5 N O.3

天草市立有明小学校

特別支援教育コーディネーター

山本美紀



休校中の子どもたちへの支援 ありがとうございました

長い休校になってしまい、保護者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。なんとか学校が再開し、子どもたちが元気に学校に戻ってきました。職員集団は、子どもたちから元気をもらい、意欲満々です。しかし、ソーシャルディスタンスを心がけながら、日々過ごさないとはいけません。これは、学校も家庭も地域も同じです。新しい生活様式に慣れるように頑張っていきましょう。



命を守るマスクだけれど・・・

新型コロナウイルスから自分を守るために、大事な役割をしてくれるマスクですが、子どもたちの中には口元が気になってたまらない、すぐに外してしまう。という子どももいます。

自分の命、周囲の人の命を守るために必要であること、を理解させましょう。

自分の親から「あなたの命を守るためだよ。あなたに何かあったら、私たちは耐えられない。」と言われることほど、ずっしり重みを感じることはありません。学校では、休憩時間には、うがいをしたり水分補給をさせたりして、リフレッシュを図ることにしています。

大人として気をつけること

マスクをしていると表情がつかめず、喜怒哀楽がつかみにくくなります。

① **しっかり目を見て話すこと。**

② **いつもよりはっきりした声で話すこと。**

を心がけましょう。これは、本校の職員にも気をつけることとして共通理解しているところです。家族だからと安心するのでなく、一人一人の子どもたちをしっかり見つめて会話をするように心がけることが、子どもに安心感をもたせることにつながり、落ち着きある態度も育ちます。



特別でない当たり前の支援

1年生の担当箱の置き方への視覚支援

1年生では担当箱にきちんと自分の物を片付けることができるようになることも大きな学習です。

- ① 一斉指導で担任と一緒に教えます。
- ② 早く登校した子どもにきちんと教えることで真似をします。
- ③ 意識が続くように、何度も言わなくていいように右の写真のように棚の上に置き、自分でするようにします。

①の段階で約半分はでき、②で大半はできるようになります。③は、意識が薄れたときのための手立てですが、自分で気づき、修正する力をつけるためには効果的です。

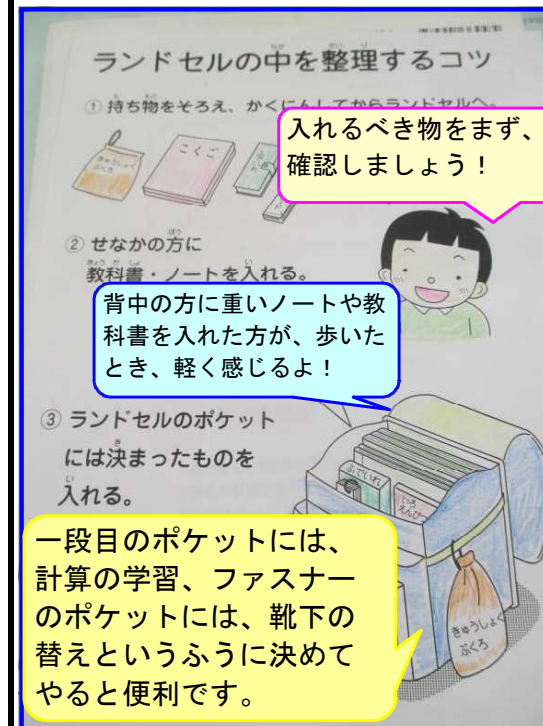
ランドセルのばしょは、あって
いますか？

ぼうしはランドセルの
うえにありますか？



すいとう
は、たてて
いますか？

ランドセルをぐちゃぐちゃにしないための約束や工夫を1年生のうちに！



学校からの持ち物は、ファイルなどに綴じこんで帰します。でも、慣れてくると煩雑になってしまいがちです。

下校で重さを感じないように、一目でわかるようにランドセルにしまうことが、子どもにとっての「生きる力」にもつながります。

「重いから、バスまで持ってやる。」

「雨だから、車で送ってやる。」

親心かもしれませんが、子どもの自立心を妨げてしまいます。

学校では、できるだけ両手に持たなくていように、荷物は余裕を持って事前に知らせているつもりです。

1年生になると、読み書きばかりに目がいって、一喜一憂してしまいがちですが、整理する力・工夫する力などは、小さいときにどれだけ考える機会を多くしたかで身につきます。わずかなヒントを提供しながら、考えさせる。一緒に考えてやる。

今しかできない、親だからこそできる、ふれあいながらの支援に取り組みましょう！

